



3

20

10

JAPAN

8

7

6

5

4

3

2

1

0

1687
1

内記
十之年四月六日
云在少院
本もく末

本朝藤原ノ事卷之一

目録

- 一失ひつゝ金子再びよ入大工
一友を支ねがれひと遂そぞる囁ささ説
一自身の證拠セウコウハ陽家カケレガをき盜賊
一非よ似いる理と云立の浪人
一質あのああの邊ちば人じん桃石

林
三州
柳
賀
書
畫

郷
庭
文
庫

一 不審を肩より初る本割れ木工事
一 余の費用ハ恩あり料人
一 実途の勘累ハ小細工屋が願

本朝友隣比事卷之目録

本朝友隣比事卷之一
○失ひて金子無ひ入太
代くの貰き政を筆の林よそゆうて今日のち
此過となり。物のくりりと拂ふべど。國
ゆくよ民やすらうする春とじへ蔽芾くろ木陰
とのこし。翦とかられ辭とかられと。山と
慕く唐士れ書の名よ劣り。傷ゆの樹よ
車とほへど。それよひて毫こと園それハ
代傍れく車の漏すとやとなく思ひ。古き
氣のね諸松が枝の木盤よかるをかこれえこ
き法アリとよびとよす。忘れもせんとあや

一き事よ書しめぬ。又よ山城乃と毛鷲坂
村よ東かとつへ入る。とき比ハ出入の者
普請もかく釣言隠にて。わづち走ぬのじよ。人
すべきやうすく仲らの者とてのみ。又年はあらう
関東へ稼より。方こと身の便を絞効き一ヶ。
天運の如る所のあひ。代料を廻。云格月
富賃并よ諸拂と仕廻金子百五三分儲されハ
えふとてゆり女房よも悦びせ家と小奇麗
よ連坐して四畠と行かど買てのと胸算用
りて。又西月十一日関東を發足。一金子百五分
能くつて三肌よつけ先の金三分を踏抜よしてト

り一時ハ道中のふもあらう。今度の鳴り
ハたすとも富くよても氣を絶らむをく。細く
金ねやど窮屈かねハな。とぬく思ひかすれ
うる怨うとこうよ富の宿。一うちあやしき男
二人大股指とよこく。訛声して。口自枕ハ上方へ
毛りうよと下をく。独り旅させ体。一かん身
とも毛衣がへぬ紙なり。用ひて寝す。と
いへば。卷た。一着。右込す。ひ夙。俗た。渡磨の原
とり入れぞう者と推。そく。まほ。挨拶。ころと
もうさんへとすれど。彼二人の者危角ア。碌
よなう見えぬ。離れされば。氣の毒。放よ思

ひきくとすう一日の言ひきよ旅店より泊り
ぬもおとく立ちゆよ又二人遙よ侍うけ是處よ
門をすきばたおもんの門門とぞ金も食も安
穂よ右郷へ起し給れと佛神よ御供し。卷角
にて水口の宿よるぬ寝よハ行勢溝ありよと
泊りする宿あれば。は和よ一旅をぬしつく思案
き。夜あゆるハ志不へゆきるべー乞までハ二人
の胡乱者とすう別象ハあれとも。今一日の内中
よけてる津す。所詮は金子とばあよ咲く。至
極よ。て立ゆ。かうてこまでえよ来るべー乞
トうよか別と。甚夜の内よ裏の敷地傍邊か

人の氣の付がつてゐよ百あれ金を埋り。よ。石
筈と目印よ。込置。今へん安。と翌日宿と
立おれば。あんのどく町もづきの松もくら二入
の若つと出やよハ老翁と捕へ甚方我ニと遙
連よ。尋ね。草大根ふ。食ふ。なんいそき肌よ
骨うち金と落すべと顔と。變眼と。つうけ
て云けれど、老翁がけく身して城は是まで月
道を取。ハ秋ホ。金銀と。おと者と。思へ。めにて
る。それハ。とは。はぬりなり。銀ハ田舎。三軒上
瀆。関東の親類と。おこよたり。よかつて丸敢
ず。がむ合。か。と。せざれば。致すべまやうかく。

又す。ごと右へゆり。左の懃をえんふ。史
も叶はずひぐを食ふがうり。外はなく。ひが野
を見きとも裸ふか風呂袋包も開き給と古
布ふの名文。きづ外をひ残ぬ三十みどり。
不便と思ひて下されませし。漏とるべて云され
二人の者ふ化れても毛ハシ肩賣初にて國利
遙いかやうれあきまき男よ二三日骨とわ
ゆの物。一きよ。兵方。下敷ね遠あります。僅に
脛足と見出する入術めなり。云半よ。古々へ
ぬ一ヶすべ。ひら用ひのなド。こればふ使は思
人なり。たかを食ふもかねやうよ。ウセベー。勝

す。り済二百多金かと投出しそよても汝おそくや。一撃
よ戻へねはまう者。捨ても懷よ金ふ百両とハ目利
す。り。は後汝ら争と攻さバ我こび仲もと承ノ。だますべ
くすと大笑してぞ立別き。う。走六社。渾しきりと城
くくとありて立西へゆり。女房よ。おの次來とあく
ゆうひ。放そ運の寢。こ時來れり。盜人よ。入強二百
多金。うちより古今稀。あ。仕合今。育ハ。も。く。体。ゆ。水口
の。序。勢。構。宿。へ。り。金。ふ。と。れ。て。ゆ。り。百。萬。の。う。く。い。の。と。見
せん。そ。ほ。済。ぐ。酒。ふ。と。ち。や。と。女。房。よ。酒。と。買。ふ。や。り
な。よ。う。駄。め。ハ。す。い。つ。酒。ふ。て。脚。の。も。御。す。腰。の。寝。入
よ。其。也。も。的。る。も。く。水。口。の。宿。へ。り。自。由。の。あ。と。始。て。元

れども古者ハ其キもなげ金子ハ至るも。是ハ
と警き其毛^{ウツ}を搜^シえれども小判^{メダル}一^{ヒサシ}也^ハ。
宿^スも隙^ヲして埋^シて立^タる金かれば。余よ知る人^ハあい
若^シさん^シくすべきね^ハもなし。毛^ハいも^{アリ}因黒^{イヌク}と^{アシ}
すりして活^キもひかし。すぐ^モ至^ル而^ハゆり女房^{ヨリ}
と家^{ヤマ}を^{シテ}殺^シるやうな金とりつけ。純^{シロ}このつ^コかき運^ハ誰^{アリ}
と恨^ムするもかし。自害^シて死^ムんと独^リ粒^ハ隣^ノの新^ハ
主^シ久^シ侍^ハありこハ何^シぞと^{シテ}問^フ。日^ハのよ^リいつむべ
きやうかくも一^レ次^ノ宋^ト被^シられバ。粗^シ不仕合^ハ致^カ
あ^リ。なぐ^シひ雨^の所^ハ地^ハれ無^シかく海^ハまセバ^ハの^ゴ
そ^ノ處^トつ^シじやう然^シかれども又^ハ祭^ハの山^ハ御^ミよ^テ

金子のりあかま^シきわよてもす。ひよ畏^ハアラベー
と飼^フるより。誠^ニ祈^ハ心^ハ懇^ハめ山^ハ出^ル

ス^ノ恐^シ云^ハ候^ハ村^ハ立^タたと^シ君^モて^シれ^ハ。私^ハ而^シ
働^クくは夏^ハ五年^ハか関東^ハ正^シ紙^セざ^シや^ハ處^ハを^シ
金子百^ハ儲^カば^ハく。齒^ハ月^ハ正^シ先^ハ中^ハて^シ朝^ハが^ハ者^ハ
乃^ハ連^シ紙^ハこ^モ迷^シ。懷^シ中の金子百^ハ水^ハぬ^ハ
登^ハ伏^シ氣^ハ方^ニ宿^ハ位^シ更^ハ人^ハ綱^ハ後^ハ家^ハの^シ蘿^ハ石^ハき^ハ
と拭^シ包^シ煙^ハ。入^ハぬ^ハ余^ハ手^ハ處^ハ目^ハ以^ハて^シ封^ハ下^ハ
金子を^シあきれ^シて^シ云^ハ是^ハ不^シ。松^ハ不^シ酒^ハ不^シ。春^ハ
之^ハ金子も^シ貪^シ者^ハと^シ出^シ。今^ハ失^ハひ^シる
ハ^シ渴^シ食^ハひ^シ耶^ハ。是^ハ意^シの上^ハ食^ハひ^シ未^ハお

われアハ福ニ申於儀シムトモホテモハリ空

月日

暁汲村主義六判

地ノ家ノ所よりそれ色修飾を致す所とも於儀の禮にて取
りあへ事。先汝家内家人等を御私房と此處の御身房
御車ト猫足ぞうりてこれとヤトレガ其猫もそを幸
なれ也。是を於儀の時よすべ。ゆくつていそき酒酒(村中の)
者ども其時亦食應べ。村の者ども聚りて牛共
猫と出。猫の膝(ひざ)の下(した)者もしく其者の馬と下
出(で)て之を一切合(あ)く者も勿(む)かず。其
とおゆ。其時よす中(なか)隠(隠)す。時ありつめ酒とすめ被(ひ)
とまされど膝(ひざ)上(う)る客(き)もかね日(ひ)僅(まづ)の与(よ)ハトリト

男來(がじこ)りと聲(こゑ)も以(ひ)造化と座(す)よかうと其まゝ猫走
り。其(その)膝(ひざ)の下(した)の腰(こし)と仰(あ)げし。されば。夷(え)
母(おや)と云(い)ふ。此(こ)そと云(い)ふ。此(こ)そと云(い)ふ。此(こ)そと云(い)ふ。
と。而(い)は。其(その)膝(ひざ)へ猫(ねこ)の下(した)と。而(い)は。其(その)馬(うま)を八家内(や
くうち)人(ひと)と云(い)ふ。老母(おや)と云(い)ふ。貧(ひづ)く。窮(きつ)く。氣(き)微
ま歌(うた)者(うたもの)ハト得(と)も母親(おや)とハ中(なか)のく佐(さ)と。而(い)
上(あ)れバ。いそぎと云(い)ふ。親(おや)ふと在(あ)居(ゐ)て運(う)出(だ)し。而(い)
ハ。宿(すみ)寄(よひよせ)。まう老母(おや)を人(ひと)に。かんこ石(いし)。され。其(その)方(ほう)
海(うみ)。なが(なが)の。す。はら。行(い)ても。を。入(い)へ。は。貴(たか)い。不(い)ア
引(ひ)き。か。や。と。わ。き。く。一。件(くだん)。まづ。一。き。身(み)。て。若
り。没(ぼく)れ。は。や。ハ。か。は。合(あ)い。一。初(はじ)尾(おひ)こそ残(のこ)

五百歩寺ありの散策よとくれやい。秋ふなが
し二十四孝の鷦^{セキ}よもあらまドトシホリトドヨ。あ
細字庵^{スミヤマ}け、うり村^{カミタツル}のゆもみ門^{カミ}ソヒウヘド。一時
斗^{ダラ}ありて老^{カミ}六^{ロク}人^{ジン}をへた庵^{アメ}と白側^{シロツキ}山^{サン}出^{ハシ}し^テ相^シ老^{カミ}六^{ロク}卒^{ソク}失^フ
ふる金^{カネ}す吟咏^{イムヒ}よむる方^{カタ}波^{ハシ}をす^テとまき行^{ハシ}と武^{ムサシ}土^ト
の付^フくよ包^{ハサフ}えだよシト百^{ハンド}の肉^{ナシ}一^{イチ}不^{ハズ}五^ゴ。じき
あ^ハ捨^{ハサフ}い^ル者^{ハシマフ}ひうと思^{ハシマフ}す。老^{カミ}六^{ロク}漸^{ハシマフ}と然^{ハシマフ}こめ
る食^フみなれバ一^{イチ}の不^{ハズ}も不^便なり。びら村^{ハシマフ}の者^{ハシマフ}
老^{カミ}六^{ロク}方^{カミ}よて酒^{カク}とおまへ^{ハシマフ}よし。其^{ハシマフ}礼^{ハシマフ}て村^{ハシマフ}の者^{ハシマフ}
たゞ金^{カネ}一^{イチ}をすべ。は^{ハシマフ}者^{ハシマフ}を^{ハシマフ}村^{ハシマフ}へ^{ハシマフ}候^{ハシマフ}す。し
相^シ老^{カミ}六^{ロク}女^ガ房^{ハシマフ}ハ思^{ハシマフ}東^{カミ}のよよ離^{ハシマフ}別^{ハシマフ}い^テかとも勝^{ハシマフ}

次歌^{ハシマフ}うべし。極^{ハシマフ}老^{カミ}母^{ハシマフ}よ^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}り^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}よし。は^{ハシマフ}酒^{ハシマフ}も
解^{ハシマフ}す母^{ハシマフ}と大切^{ハシマフ}は。其^{ハシマフ}老^{カミ}の^{ハシマフ}志^{ハシマフ}と^{ハシマフ}化^{ハシマフ}人^{ハシマフ}よ難^{ハシマフ}と^{ハシマフ}尊^{ハシマフ}
極^{ハシマフ}老^{カミ}道^{ハシマフ}のふと改^{ハシマフ}び^{ハシマフ}しと^{ハシマフ}悟^{ハシマフ}付^{ハシマフ}れ^{ハシマフ}る^{ハシマフ}と^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}。夫^{ハシマフ}
題^{ハシマフ}を^{ハシマフ}よ^{ハシマフ}老^{カミ}も^{ハシマフ}も^{ハシマフ}も^{ハシマフ}も^{ハシマフ}庵^{ハシマフ}も^{ハシマフ}門^{ハシマフ}も^{ハシマフ}待^{ハシマフ}く^{ハシマフ}せ^{ハシマフ}。其^{ハシマフ}
あり^{ハシマフ}ご^{ハシマフ}役^{ハシマフ}人^{ハシマフ}宿^{ハシマフ}と^{ハシマフ}み^{ハシマフ}八^{ハシマフ}方^{ハシマフ}へ^{ハシマフ}き^{ハシマフ}ハ^{ハシマフ}され。家^{ハシマフ}際^{ハシマフ}
游^{ハシマフ}道^{ハシマフ}具^{ハシマフ}と改^{ハシマフ}り^{ハシマフ}を^{ハシマフ}給^{ハシマフ}よ。お^{ハシマフ}も^{ハシマフ}ね^{ハシマフ}の^{ハシマフ}庵^{ハシマフ}、^{ハシマフ}
金^{カネ}を^{ハシマフ}包^{ハシマフ}古^{ハシマフ}き汗^{ハシマフ}よ拭^{ハシマフ}よ^{ハシマフ}の付^{ハシマフ}る^{ハシマフ}よ^{ハシマフ}包^{ハシマフ}
な^{ハシマフ}う^{ハシマフ}み^{ハシマフ}ーと役^{ハシマフ}人^{ハシマフ}れ^{ハシマフ}う^{ハシマフ}て^{ハシマフ}、^{ハシマフ}上^{ハシマフ}着^{ハシマフ}い
ーと^{ハシマフ}す^{ハシマフ}。地^{ハシマフ}頭^{ハシマフ}の頬^{ハシマフ}脣^{ハシマフ}に^{ハシマフ}癡^{ハシマフ}の^{ハシマフ}社^{ハシマフ}瓦^{ハシマフ}の^{ハシマフ}聲^{ハシマフ}
ふ^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}ずと^{ハシマフ}く^{ハシマフ}感^{ハシマフ}ト^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}う^{ハシマフ}る^{ハシマフ}と^{ハシマフ}あ^{ハシマフ}

○後^{ハシマフ}を^{ハシマフ}か^{ハシマフ}新^{ハシマフ}ひ^{ハシマフ}と^{ハシマフ}遙^{ハシマフ}る^{ハシマフ}囁^{ハシマフ}咤^{ハシマフ}



恐きうるをよは私候へ市橋村友左支と申すのみ
て立たれ和あせりの利ぞりよ。壹城十七八人押入る
ト。吉三家來て臺入り付。わざいハ椒椒及巾とかぶ
せ。衣冠儀式具よひ多と此をも全まつて翁而更衣
更用餘。うぢいれ下男を人切てろし。そんの身を
貢せ。十死一生にまづりあり。み壹城人を以てよ墨
をわり。かくらひえくよか三日へ。そんと今りと
出でなく。行方をくど迎うり。はが葉燃よれ。詫美家
ト。それうちわりごとてまねはせ

月日

吉三家

吉三家うちわくの穿鑿あきごと。三十日あまわ

あせりされハヤゾテ。屬定られとなて。さくらを多。
はきびの壹城と訴人よからよがりてだそ。同れ方
ひととの料とゆ。一麿承うて。黄金を稼取下る
がきを知るよも。されされど。たゞ五うだる
ゆ。とすく六日よゆすり訴人をかうりぬよ。又沙器
樂行りて。の囁絆。されとれ。ひそびの壹城と
訴人よどきの磨毒うて。黄金を稼取ト。うぐ
ぐ。とされをこそ。くまもと。なればせり。不審
して。黄金を稼取よて。うぐ。訴人稼み取よ。城や
て。ねうて。かづく。五ヶ所もけり。がわる。乗れられ
もうれせり。ものあり。それ。家あ作も。うぐ。

西。今ひ拾取下されどよ速訴人候。乞うてこそあじけ。そもそもひは此登城の中より。訴人のものもれとすれどもそれより一びある。と本の百姓三人商人武人りぐくなくかけあまつりければ東西南北の海を駆逐をうけてとうとまことり。主通する正偏拂団（ほりやま）もじはいよぬ。化村の同類をとそづして。父と孫七八人あまくにあれ嚴刑（ごんぎょう）よむがれ。左金手のうちもや面病あり不足へもどもしあ全ありがくらうへしけ。訴人よがんとそぞり紙せしハビツの山都を袋もつあぐくすり事をすわざる。

○自身の澄櫛、浪家ふき盜賊

恐々々々云とは伊豆郡町の水裏水本の津の森大波
よ及ゆる森巻火燒（かうちや）。縁由を察のれ。常水
馬場となく。焼地より社祠と役所へ移る。森（のき）を
林りてはれぬ。併ものをあれど。夜よへとへえの森に至
を捨。柘枝（さくじ）をもろー。大穢（おほあら）なる人皆人皆食事を
酒（さけ）はまわゆ。こそ心はなへど。ばはまう。大勢よ
か至る。細家とゆ。よまをとれ。もろと吟咏（げんぎやく）。
一人の毎日は東河原東河原。書くとよへ依ての東河原
かど他圓（まん）。すこひ中央を切たにおもひよりは左。ばえ
の曉風を追立（よせたま）。と村中と黒ちよひましたん

かく。あはい。一ゆく氣を一くすむ。りもやうれ
がんこしておよ追ひ。事難かだはあゆ。ま
の氣の庵。又へ押へなどありとくすむ。る
れ感えをかいてきのきよ。かくよ作付く。せらトと
やうく。まね

月日

名古村中

地乃まく。あく。而けらき。ち。御樹。今。うち。む。見
あらゆる者。固。わく。に。おもて。こ。收。ふ。それ。と。固。の
枝。あ。小。猿。の。孙。み。え。と。よ。人。を。石。捕。ひ。今。味。の。え。
教。み。れ。想。半。ひ。そ。ば。斬。飛。よ。修。め。べ。れ。ど。と。罵
然。わく。一。往。出。た。と。け。か。う。く。を。り。ば。く。ハ。汝。友。人。乃

ものを。内。名。切。中。間。の。う。つ。よ。ア。有。り。あ。で。だ。今
まで。ある。もの。ま。う。人。殺。生。を。實。名。細。よ。書。付。と。し
の。て。う。つ。よ。く。く。く。ま。か。化。あ。む。わ。へ。あ。り。や。り。そ。を
人。と。き。べ。く。く。く。板。筒。化。外。へ。や。に。及。び。と。取。度。つ。く。
う。く。一。切。傷。け。り。白。毫。よ。ね。わ。う。あ。り。男。骨。筋。筋。筋。
の。事。へ。あ。も。う。う。う。づ。ま。と。あ。り。と。く。く。く。く。く。く。
か。へ。追。剥。过。功。等。修。よ。ひ。て。へ。あ。今。の。と。駕。ま
下。づ。ち。す。そ。い。は。お。修。付。く。だ。う。と。一。も。う。う。な。駕。
お。駕。よ。余。た。す。す。う。死。か。の。ひ。よ。ま。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。ひ。あ。り。聖。目。因。教。教。味。し。て。辛。ニ。生。

安堵のよりひとゆう。十日余りつてあへま
櫻井とばすひ山來りぬ。持ち刀刀根さしゆすり
ゆきくら。まろきトのうちもせ。の後たる自か
先立てゆうべ。兩人ともうこに酒うらぐを
と作つけられけど。一年わてぬりみ十三人を
倒れ死あり。ひ事と板橋もろよづきと肝をひ
や。准七八九そらにへなまといふものと人々を
とく圍どりゆきもとくさくらもあらねがうど。も
うの後合の日又えりわすめめもとくか退却する
が。あ夜半三人づきとくをく迎うちりぬ。くとく
桂井林立とたまりやうとく。失てんなり。とく

そゆきゆく葉とて感りり

○非よ似う理と云立の浪人

あナ七日の東親毛町を含す 捨ひと板町小宮惣

捨ひと板町小宮惣

とくの日又えり。まくはまくは とくの日又えり

ゆかく言とはほ私派ハ里井町櫻井町四八とく者
して。ゆかく。あ十七日。東親毛三面。方。おだよ
ゆかく。まくはまくは。非似行取。ひ金持ひゆくも。而より
紙を出。天のやくと。まくはまくは。板町村望
ゆかく。人お尋ね。ひ。詰。会のあ。よ。う。たら
ト。くに付。財布。奥。持。よ。後。美。裏。紙。廢。ひ。家

えの内物をそと金子三百枚を手筋の内包て封下
到形書付の次第。がむれ遠くあへてお處で
はあがむれ礼金をとけ合ふて。おの金子を後段。後
段下へて一夜持ひてからまどもお出でよしれをば
いぬを。返りて改めまうりかまどもお出でよしれをば
れ。お出のうへお出でよしれ。改めやまうりを付
らとお下さりやめてすみねりと

月日

舊暦四月八日

地に坐りておへからまと村叟想方坐つ鷺沢館四角ハセ
石もれ。三方金子替ひてに村叟のまへ返され。お出で
らべ何うして法紙をひいてりとお出ゆわう時

思お座下とさうへ私供ひまへ小舟をとれあひゆ。信
え年があ不運よ漁人仕う。縁難古傷幸たれ食力
色承くのゆゆ下結ごく。事の年くの信金店裏
六とまくみのこ一派拂ひてよし。朝夕の旅そく發お
ひ後舟へとまく金子を拂ひて後半と冥想すと
思ふとまくはおの信金實かり等もひて先程
よせたひゆ。そのままでこまくもどりまく御前
人の候。御よふをの金子をうちあひしきてとて當
を始め。今おひじりててこひよし。後盜てまく又ハ怪異
をとの心びか儀そと仕づる金子うちよし。お出
らまくへてお捨りよすとまく。よしに詰ひて

物を語るよ枝葉は度て病へと氣を分味候ま
ようだはそれ少より紙を病へとお渡へりとさ
とい書付にすとやわきい事な御あづくらを勧
ありて。四角へと作れどもへを三方角もく全み
よぬびしか紀事されども墨風源文よ
かけ。三面換へて三面うち角を角これ
様ひとされねじつこね。わくと見て三面の四
八角せんぐく源を流して退あそびらう。あくらひと
ふの源へと筋用古きの尾のまどけのう
筒えらきをか音ふと西主へ方とお歎あらみ
とをあすりあとて四角八方へ合三百多筋者。や房が

へ全子石安維傳おとてにうりり。捨ひ金より
あくとひきかの格四角へ合へと生むくり比の策
無派うとととと

○ 實相ハ曲の邊人趣を寫

忍うう言とはほれに至れり。若すて櫻を櫻若
鳥傳をよえせよ。うりわらとひてよ。去きめうり結
えうとみ付。あみた六人に渡せり。うねひ。みう
御賈うとこかうとひとて家主よりへねなり翁を押へれ
かれひへ細工よかくとて御もとだかくを貪へりよ
かよとす。あくとあみを済令よびし難波は傳。右
家主と出されを翁也。これ。御よ作付を

家下り市はまほりと

月日

立行軍判

此は毎人のものと云ふれを策へひをと満てだらぞと
作けり。家主みが七肩とす。又が八奥箱とへ令旨
まで承用がどくと金へうそとす。年日とすと
物をうよひありけり。まか一日の作料へひやく
えとあくよ。一日武文のとど。あくと家主とす
きの具箱よ。外三肩用おもへ多交物をよ返キ仕
事と作せざれども

○不審上肩よ知る本部の力工事

恐かう言と仕は私へどひ坂村角翁とす者とて毎日

和日用をとくに事よりとせたる程とす。今日
ヨリテテ家主の内よ何との事とすと解し。而
まくひそめじう牛馬のよ席やねてすと
車やねこれよ及み仰り又付門へらむせん方を往け
急切にさせん候まくとくに難をうす候事

月日

立行軍判

恐かう言と仕は私へどひ坂村角翁とす者とて
暮れとあいとす娘を人これわひとひとまき。坂村とい
娘の内よとすとまのよ嫁へとすとす。而此の角翁
かくうりも言ふよ富へゆりとんへぬよつたる
う能とばしき沙をうすたわす。あくとまのひの



り未だらうアリナリ。私にて事あり。既に
食事す。之を以て推察し。之より食ふが一と
物矣。活死房を幼木はスハク。毒をアラヘ
モヤ松風アラヘ。而前モヨリテ。能ミテモ化
アリ。之を以て。アラム。アラム。トモ。其
毛をも。娘を抱不至。又殺一。ハ無致。アラム。モ
殺シト。アラム。モ。モ。

月日

此日も。多く。心穏やか。可喜。疑ふ所。モ。ゲ。利
ト。ソ。ミ。ト。あ。ア。ト。ヨ。ウ。タ。ト。不。解。少。シ。ト。か。よ。ム
う。ク。タ。離。別。シ。ク。ヨ。ミ。細。ア。リ。ゆ。シ。ト。モ。う。ク。モ。ヒ

アリ。て殺。モ。ヤ。ア。の。後。ア。リ。ア。。ひ。も。び。の。殺。シ。モ。キ
ケ。ル。若。ア。リ。ア。ー。ト。ち。浦。近。け。ア。ヒ。シ。ク。ア。村。中。
出。屬。ア。リ。モ。然。レ。て。自。憲。不。可。ら。モ。ヒ。シ。ト。が。ア。モ
タ。モ。サ。レ。ト。先。ア。モ。サ。レ。ト。モ。シ。ア。モ。ヒ。モ。ア。モ。ア。モ。ア。
テ。モ。不。害。ア。リ。事。に。加。く。それ。モ。ア。リ。ア。ハ。只。今。ア
モ。ア。モ。ア。上。が。ア。。以。み。モ。後。日。モ。ア。モ。ア。レ。テ。ハ。犯。
科。控。ア。リ。モ。ト。給。ら。見。ア。レ。ハ。本。刻。ア。ハ。エ。平。ア。ト。者。モ。ち
ア。モ。ガ。ア。リ。ア。レ。本。刻。ア。ハ。エ。平。ア。ト。者。モ。ち
ア。ト。女。既。死。は。リ。ア。ト。ト。テ。桶。ア。入。社。墓。モ。理。モ。ト
ア。レ。モ。ア。リ。ア。モ。シ。根。ア。レ。ケ。モ。リ。理。モ。ハ。シ。下。ム
當。ア。ト。ニ。シ。ヒ。ア。肥。肉。モ。ア。送。ア。ト。死。骸。ア。モ

かくとくニシテ牛か子の元ひよりのれよはひばか
不審なりすらだをくひどす。もひの桶おけをうそと
かくね氣きせど仰あむれりよぬをやうそりが一地
ひの桶おけと桶の蓋ふたとそれを。也。首ひのり。也
よ達いたみす塵ほこりを先さて。これを方カタ娘むすめの肩かたと申ゆ
リ可べ立たつれまへ。うちまへ。まくら娘むすめのほしよハ
なづの肩かたの下したにまくらの頭かぶの肩かたをさり。也
ひの肩かたとくじに似にたる者ものを不審ふしんよ
ちがちが。先さづ死死ままを取とれ。方カタ娘むすめ死死ままを取とる事ことを
申あす。理りいけり。まつうひひも。もととく事ことを
んくの女めの觸つはづくよあると。穿うながすと穿うながすと

例たとえ。返そ言い遲おそく。もろ神かみを山邊さんべありて。まひ
く携た向むかり。され。肉にく。角つの。あづき房ぼうと。密ひそめめ。そ
ひうそ。也。死死まま。ぐ。もくらまま。べ。と。も。一
合あせ。肉にく。ひま。う。ひ。ひ。う。わ。言い。下さ。女め。娘むすめ。も。も。を
さ。い。も。ひ。も。の。も。ひ。を。切き。ほ。う。肉にく。角つの。房ぼう。ひ。そ。め。も。よ。く。一。ま
す。と。よ。そ。を。象ぞう。ま。の。う。り。よ。の。教お。一。ま。す。よ。う。ま。の。う。り。よ。の。う。り
れ。う。白しら。心こころ。も。ざ。れ。う。く。や。う。ま。と。本もと。も。の。う。り。

○今いまの纂いは那なハ。賊賊。あり。科科。ハ。

思おもひ。言い。こ。は。ひ。私わたくの。強つ。掛か。脣くち。朱しゆ。赤あか。こ。す。幕まく。そ。

也先は四十日未満の事より、ヨリを以てよ火のれと
ア作と今朝町内のみを見渡す。もろもろのあれ
たる有難く、そつとされあつてひびきこよとのふよ
ー古事記とからり濱町は傍もはあわひけり
れとおまはなせんとシトトと有難てさむねはゆ

月日

行方無跡を判

地が空一色、若狭をとみて火のれと多くはやじと
候なりと脚本は有と云ふ火のれをりし、まちと
いたづねある。こまつて、上けるはまく、半親
代より余商賣にて、而年五万石と税力あり
候。商賣のせ活けて、がくわくめりあふとらん

家と賣拂ひは拂子とて、主人貪樂の漏
食と一生絶りアゞきを免恕を極り十六孫ん等がよ
法師作り、小僧度とりりりりりと、而多七孫み丈よお
いひ孫も多と、アモハナテタリ百人。三千石をよほ
うたりと、是時、萬葉賣夷の得とうと向井けまで
わらへは組の力とを以つて、アハ修くせども、一ノ參
を承取後を取め、一萬八九ノ分後世ゆううとこにあは
御らぬよもく、ニテ前より雪城よりし余をよき
金銀移れずして、ああともと飢よひひへどもかよれし
内々、秋元一のとて、とを算だてて、其事もわく合計を
れ、アラキキモジのをよまりか、とぞとゑに仕立

つまくお擲さなづきよぬじやとを合あわす。不^可よみだ。せうて
ウセ合あわしよのれと強。胸をもじ。よそよほむ
あはえよ穴あなをほけよ。とん鹿のしかを、ひれかくらゆねねを
うきほけよ。トロトロ。ひねすりあう。すづり
て神かみを候まつ。不忠ふちゆう。不義ふぎ。あく。幼こどめり飼かむてらき。
今大鷦おおの鳥とり。春属はるぞくを眷わいす。ひたよびをかゑむ
きと。まこと教うながすのやぐまとかうす。七十みの身。わ
とまともあくねたきもの渴うが命めいをせ活はせゆ。どきと
て。大あざり。術じゆ人ひとよもく。惣おひな玉力たまぢゆ。十一男むすり
おも子こす。大年おおと。重う恩おん。もといなと。今日きょう。うりなと
まき。うりかく。金かなを手てへ火ひはけ。圓まんあん。秋あき人ひと

かく。宿しゆく先さきをり。かく。まみよろて。鳥とり度わた大おほぶり
よ。ナガラながらわざ。町まちの老おとこをよにしゆく。あそく
○冥途めいとの効器こうきハ小細こほそをうだ

思おもふ言こととは私わたくしの向むか西に町まちよお車くるまは小細こほそを平ひら内うち
トヤドのうそうそだ。じ。うちの旅たび。一日いち一いつよふ人ひと
生うまうよふ人ひと死死り。トヤとやう。はゆ。とよ。毎日まいにちを追おす
永ながい。ひそひそ。死死を。海かいの墓いは。二に時じの還か葬くわう。北きたく
まき。二に事こと教うながう。ひそひそを。ひそひそお見み。やし。これ。よ。北きた
お葬くわう。火ひ葬くわうよ。よ。す。棺棺。捕つかよ。お葬くわう。ととて。お葬くわうを安やす
げげへ。遇あり。ば。残のこ。灰ほ。か。よ。なり。一日いちの申まこと。よ
とつり。つと。ひかり。て。あ。し。よ。したま。よ。お。せ。の。向むか西に

も松川より古事記の火皿にて、傍の形とはり。ある夜、
もうう火こえよおまくら。せよへ臺ひろす。たくはあひど、
國一先一よへ毛いはうへ毛中へれをりと先ド御ノよ
れ縄作はげら毛いはうへとむら筋賣下よ作付く毛
毛トトうき難下よねひが

月日

小糸屋平内判

お頬空言跡毛毛アキ一通り大切のたゞをも理
大よやまくそてほ幸圓去の辻へたりうりかう六右
心あつま配とぞくその上あんま王倉兵とくされ
やら絆か一海毛とく實遠へまり地あやうりよお
討ひ一その上あんまた王へそせうとべ一ゆく御道院

いとよみとよすな一と作りきられハ神かよおまき
かうひきあひて是モモサノケテモゆりうるとゆく波
モサ房又れハあまのものとるひり血みどより
奪りのもそろ一この門のうらうそづらをかあは
とおうへとくちり

本朝文選比事卷之二

